



「苑」この人に会いたい
冒険家、
クラーク記念国際高等学校校長
三浦雄一郎さん(80歳)

三浦 雄一郎

「世界最高の気分です。

世界最高齢の80歳で、まさか着くとは思ってもみませんでした。

これ以上ない気分。80歳、まだまだ行ける」

2013年5月23日午前9時（日本時間同午後0時15分）、史上最高齢となる80歳で世界最高峰エベレストの登頂に成功！ 数々の記録を打ち立てる一方で教育者の顔も持ち、「行動する知識人」として活躍する三浦さん。エベレストに挑む出発前にお話を伺った。



岩木山弾丸レース



北大時代



北大スキー部



1964年富士山滑降

持病を克服した80歳のチャレンジ

昨年10月12日、80歳の誕生日に三浦雄一郎さんは還暦を意味する赤いウエアで記者会見に臨んだ。今春、エベレストにチャレンジすることを発表し、「人類の限界を超えられるのではないか」「現代の還暦は80歳ですよ」と語った。登頂すれば、自身が持つ75歳の記録を塗り替え、世界最高峰に世界最高齢で立つことになる。この会見後、持病の不整脈が再発して二度も手術し、出発までの道も決して平坦ではなかった。

「エベレストに登るのは、世界最高峰だから。命がけと言われたらそうだけど、やっぱり自分でやりたいことなもん

です。僕の父親は99歳でモンブランに登ったのですが、90歳から97歳の間に3回骨折してるんですよ。普通は90超えて骨折したらスキーは危ないからやめようってなりますけど、本人は「スキーが好きだから復活してモンブランを滑りたい」と言っていて、とうとう99歳で滑りました。やっぱり人間、そういう願望というか夢があれば頑張れるということをおじの姿を見て学びましたね。

エベレストは寒さや酸欠など過酷な環境なので、実年齢は80歳でも体力は110歳ぐらいに落ちます。この世では存在しない年齢になりますから、最低でも40代の体力を取り戻すトレーニングが必要なんです。そのくせ不整脈があって

去年の11月に手術したんですが、その後インフルエンザとオーバートレーニングの疲れで再発して、1月半ばに再手術したんです。電気メスを入れる6時間の大手術でした。

検査に行くたびに医者からは「スキーなんてやめなさい、エベレストなんてとんでもない」と言われて、今回も「医者として許可できない」と言われていたけど、手術してくれた先生がガッツポーズ出して「これなら登れる」と言ってくれたんですよ。人間というのは、暗示にかけられるものすごい力が出るんです。今はやっとリハビリが終わって、徐々に出発の準備をしています。5年前に決めて準備をしてきたから、延期とい

う選択肢はなかったですね。」

病弱だった少年がスキーに熱中

三浦さんは1932年、青森市で生まれた。幼少期は病気がちで、初めてスキーをしたのは小学校2年の時だった。

「小学校の時は小児結核で4年生と5年生は半年しか学校に行けなかったし、6年間で5回も転校して中学校は1年遅れで入りました。子供の頃から体が弱いくせに頭も弱かったですね(笑)。岩に登って落ちたり、大きい木を飛び移ったり、汽車が通る鉄橋の下にぶら下がったり。昔から冒険や探検に憧れてました。父親が山登りやスキーをやらせたのは、私が病氣ばかりしていたので健康法として体力を回復させるのが目的でした。山登りやスキーは人と競争するスポーツではないので、自分のペースでできるということだね。おやじは「これが行き過ぎた」って言ってましたけど(笑)」

東京で過ごした中学時代は、冬休みなどに2週間ほど志賀高原や白馬で滑り、本格的にスキーを始めたのは青森に戻った弘前高校入学後。スキー部に入部したとたん青森県トップになって全国大会や国体に出場し、高校2年で全日本スキー選手権2位に。卒業後は北海道大学獣医学部に進学した。

「大学では冬はスキー部、夏は山岳部で、山とスキーに熱中してました。山岳

部の連中と山や岩登りをした経験は、今回のエベレストにもつながってますね。エベレストをスキー滑降した時も山岳部の連中がサポートして応援してくれたし、それも山登りをやってきたおかげだと思います。」

アマチュアからプロスキーへ転向

卒業後は、同大学獣医学部薬理学教室の教官助手として勤務。辞任後は全日本スキー選手権青森県予選で優勝するが、その閉会式で青森県から全日本選手権への派遣人数をめぐってスキー連盟関係者

と対立。アマチュア資格を剥奪され、アマチュアスキー界永久追放の憂き目に遭った。

「いま考えればひどい話ですけど、選手の手枠が4人あるのに2人しか行けないと言うので抗議したんです。最近も柔道連盟の事件が問題になりましたけど、役員に逆らったら実力があってもチームには入れないんですよ。選手には不当に高い金を出させて役員は贅沢するっていう部分に切り込もうとしたから対立した。僕の頃はストップウォッチで測る時代で、タイムまでごまかされましたから。あのままオリンピックに行ったらとして



も、引退したらコーチやれとかその連中の仲間にされたりだし、結果的にアマチュア資格を剥奪されてよかったと思っています。」

その後は29歳でアメリカ世界プロスキー協会の会員となり、31歳の時にイタリア・キロメーターランセに日本人として初めて参加、時速172・084の世界新記録を樹立。映画にもなった富士山直滑降は33歳の時で、スキー界で初めて使用されたパラシュートブレーキは、現代のパラグライダー誕生のきっかけになった。富士山滑降を皮切りに、オーストラリア最高峰のコジアスコ、北米大陸最高峰のマッキンレーと、次々に滑降を達成していく。

「富士山からの滑降は、イタリアのスピードレースで世界記録を出した後に仕事で大阪に向かう時、新幹線の中で思いついたんです。窓から雪をかぶった富士山が目に入ってきて、「あつ、あそこをまっすぐ滑ってやろう」って（笑）。富士山の直滑降もスピードスキーもマンガみたいですけど、自分でもマンガの世界にいたような気持ちでやってました。」

目標達成後、典型的なメタボに

三浦さんの名が世界中に知れ渡ったのは、37歳で達成したエベレスト・サウスコル8千m世界最高地点からのスキー滑降だろう。ギネスブックにも掲載された

この記録は、「エベレスト大滑降」というタイトルで映画化され、アカデミー賞記録映画部門で賞を獲得。その後も世界の高峰で滑降を続け、52歳で人類初となる世界7大陸最高峰のスキー滑降を完全達成した。

「50代になってやっと七大陸制覇が終わって、「もういいだろう、リタイアしよう」と思いました。それからゴルフをしたり、北海道に行ってビール飲み放題、焼き肉食べ放題で肉を1kg食べた。そんな暴飲暴食を続けていたらメタボと狭心症になって、60代前半には余命3年の状態になっていたんです。最初は、布団で寝ていて背中が気持ち悪いなと思っていたら心臓をつかまれたようになって、死ぬかと思いました。それが狭心症の発作で心臓がけいれんを起こしていたんですが、10分ぐらいすると治るし病院に行くのは怖いから放置していたんです。そんな時に家内が膝を痛めたので知り合いの病院に連れて行って、玄関で逃げて帰ろうと思ったら院長先生にしまった（笑）。検査した結果、高血圧、高脂血症、糖尿病、冠動脈も詰まっていた、腎臓もこのままでは人工透析で、余命3年って言われたんです。」

そこで今の自分は飲みすぎ、食べすぎ、運動不足で目標がないことに気付いたんです。ところが僕のおやは99歳でモンブランを滑ろうとしていた。骨折しても骨折しても治してまたやる。そういうお



2007年 中国側チョモランマ6千メートル付近のスキー滑走



2003年 三浦敬三99歳モンブラン・雄一郎、雄大、里緒



2013年エベレスト登頂

やじがいたから頑張ったっていうのはありますよね。目的があれば、病気や怪我に負けないと。それで「おやじがモンブランなら、俺はエベレストだ」と考えたんです。でも本音はメタボを治したかっただけなんです（笑）」

70歳のエベレストから挑戦は続く

165cmで88kgというメタボ体型になってしまった三浦さん。64歳でトレーニングを始め、70歳でエベレストという目標を掲げた。

「まずは60代の健康体になって、ついでに運動習慣をつけていこうと。始めたばかりの時に500mの山に登ったら、途中でのびてしまって頂上に行けなかったんです。エベレストまで5年あるけど、果たして登れるだろうかと思うようになりました。

でも僕の人生のモットーは「なんとなく」なんです（笑）。最悪などん底にいくのはかえって面白い。仕事も忙しかったので、仕事しながらトレーニングしました。学生時代からやっていた方法で、足首に重りをつけてザックを背負って出かけるんです。足首に1kgずつ、ザックに10kgつけて外出や散歩をしているうちにどんどんメタボが減って、半年足らずでほとんど消えました。そこから重りを少しずつ増やして、最終的には片足10kgずつ、背中に30kgぐらい。そこまでや



2008年エベレスト登頂



エベレスト



氷瀑を渡る



南極・ヴァインソンマシフ

らないとエベレストには登れないです
から。3年ぐらいすると富士山に5、6
回登って、次はヒマラヤで6千、7千、
8千m、と毎年目標を立てていきました。
どうしてそこまで言われるけど、ス
ポーツをやっていたらそれが当たり前で
すよ。苦しさや自分の限界を越えないと
その世界には入れないし、みんなやって
ることです。若い頃にやったのと同じつ
もりでやればできるということですよ
ね。70歳で登った時は頂上が曇ってし
まったんですよ。75の時はきれいに晴れ
たけど、今度はどうかな。

これからの夢は、エベレストが終わっ
てからまた見えてくるのかなと思いま
す。ヒマラヤにチョ・オユーという8千
m級の山があるので、これをスキーで
滑ってみたいとかいくつかやりたいこと
はあります。家族はもう勘弁してくれと
言ってますけど（笑）。年を取っても、
みんなやりたいことはあると思うんでき
ゃね。僕の場合は山だけれど、トレーニ
ングするにしても具体的な目標があるの
とないのでは全然違うんです。中高年す
ぎたら、海外旅行でも何でもいいから何
か目標を持つといいと思いますね」

学校長として教育にも力を注ぐ

年齢を超越したプロスキーヤーとして
躍進する傍ら、三浦さんはクラーク記念
国際高等学校の校長という顔を持つ。講



演でも引っぱりだこの存在だ。

「不登校とかの生徒を集めて、駆け込
み寺みたいな学校を作ろうと思ったのが
始まりなんです。2000人からスタート
して、今は全国で直営キャンパスが45、
加盟校が66あって、今春は4千人が卒業
しました。歌手の手島葵も卒業生だし、
オリンピック選手やイギリスの王室バレ
エ団で修業する子もいるし、アイスホッ
ケー選手やF1レーサーなど、個性のあ
る子たちが多くですね。身障者の子もた
くさんいて、富士山にどうしても登りた
いという子がいるとみんなで車椅子ごと
引き上げる、なんてこともやっています。
ネパールに小学校を作ったりね。

最初は講演が嫌だったんですよ、人前
で話すのが苦手で。でもやっているうち
に、「講演をきいて勇気が出た」「元気を
もらった」「やる気が出て今はこうなっ
た」と言われるようになって、自分の経
験も少しは人に元気や勇気を与えられる
んだなと思うようになりました。一番顕
著に実感したのは、元アメリカ大統領の
ジミー・カーターさんです。どうしても
会いたいという話がきて会ったら、「私
が大統領になった時はアフガニスタン戦
争と大不況の一番ひどい状態で、ストレ

スだらけだった。そんな時にエベレスト
を滑った日本人がいて、その映画がアカ
デミー賞をもらったと聞いた。ホワイト
ハウスの写真室で見たら、気持ちがあ
くさっぱりして元気が出てきた。大統領
の任期中に10回ぐらい見た」と言われ
たんです。嬉しかったですね」

3月末、三浦さんは「80歳でチャレ
ンジできる目標があるのは幸いで、それも
世界最高峰のエベレストであることがす
ごく嬉しい。今回のチャレンジは人が幾
つになっても夢を持ち、それに向かい登
り続けることが出来る、ということ。自
分自身、今はエベレストへ向かって高鳴
る希望の鼓動を胸に登り続けたい」とコ
メントし、首都圏のクラーク生徒100
名と多くのメディアに見送られて日本を
出発した。そして5月23日、ついにエベ
レスト登頂に成功。その陰には、共に頂
上を極めた次男の豪太さんやベースキャ
ンプでサポートした長男の雄大さんをは
じめとする、家族の力もあった。人間の
限界に挑戦し、前人未到の目標を成し遂
げた三浦さんに心から拍手を送りたい。



トレーニング